

## 粋なクラブの ご利用方法



北新地社交料飲協会 副会長  
山名 和枝

きっかけは昭和34年（1959年）の暮。まさか生涯の仕事になるなんて夢にも思わず、ラテンの神様「トリオロスパンチオス」のショーを、タダで聴きたくて入店したがナイトクラブアローでした。アローの隣りには料亭「北大和」があり、宴会後の流れで来店されるお客様の凄いいこと。アローには北野タダオ率いる十数名のバンドに、専属歌手にはアイジヨージ、坂本スミ子さんが。バックバンドはサキソフオンの古谷充さんとそのグループと、それはそれは、今では想像もつかない煌びやかな世界でした。

ホステスは「夜の蝶」と言われ、あちらこちらから指名が掛かると、テーブルからテーブルへと美しく飛び舞う、まさに「蝶」そのものでした。反対に指名の掛からないホステスは、ひとつのテーブルに釘付けで、日給ポッキリという有様。売れっ子ホステスさんの華麗な動きに憧れたものでした。

当時お支払いはすべてツケ（後払い）で、勘定書を突き付けられることもなく、サインもない、いわゆる「顔パス」でした。「おいおい支払いは……と、お連れの方が訝ります。顔パスは男のステータスでした。サインも求められず、颯爽と肩で風きる格好良さ。いつか俺も……と、高度成長の良き時代でした。

担当したホステスさんは、20日締め「ツケ」を早くて月末、さらには翌月5日か10日、15日にと、その都度自前で集金にお伺いするのです。もちろん手ぶらでは行けません。どの会社の経理も集金日はお菓子の手で、これでは余程の売れっ子でなければ採算は取れません。挙句の果てには多額のツケを溜めたままドロソするお客様もおられ、泣かされたホステスさんも少なくなかったようです。

現在では、ほとんどのお客様が銀行振込クレジットカードでのお支払いとなり、集金の手間も省けてどれほど有難いことか、感謝に堪えません。

北新地の経営者の皆様、ホステスの皆さん、お客様との昔日の良き思い出を改めて思い起し、心から感謝と御礼を申し上げます。